

# 県内版



学校駐車場前の道路近くでCO<sub>2</sub>濃度を測る台湾の小学生たち  
2015年3月（伊藤教授提供）



伊藤雅一教授

環境教育プログラムが国内外に広がっている。身近な場所で「酸化炭素(CO<sub>2</sub>)」の濃度を測定し、CO<sub>2</sub>を見える化して地球温暖化問題への理解を深めることを目指す体験型のプログラム。CO<sub>2</sub>排出量が世界一の中国でも市民向けの教材として使われる準備が進んでいる。（今村節）

## CO<sub>2</sub>濃度測り問題実感

プログラムは2003年に開発され、小学生から高校生が対象。同大の教員が学校に出向き、各校の要望に合うよう、アレンジして指導している。小学校は二十六校が一

中学、高校の授業では、同大が国内外二十八カ所で常時観測しているCO<sub>2</sub>データも活用。各地点の濃度と気象情報をもとに、風向きなどで濃度がどう変わるかを分析する。

これまでに愛知、岐阜、三重の三十七校が導入。ま

名古屋産業大（尾張旭市）の伊藤雅一教授（左）が開発した子供向けの環境教育プログラムが国内外に広がっている。身近な場所で「酸化炭素(CO<sub>2</sub>)」の濃度を測定し、CO<sub>2</sub>を見える化して地球温暖化問題への理解を深めることを目指す体験型のプログラム。CO<sub>2</sub>排出量が世界一の中国でも市民向けの教材として使われる準備が進んでいる。（今村節）

セット。児童が測定器を手に構内や周辺を巡り、濃度の高い所と低い所を色分けして「濃度マップ」を作り。車の排ガスが多い場所では濃度が上がり、CO<sub>2</sub>を吸収する植物の近くでは濃度が下がるといった数値の変化を実際に見ることで、地球温暖化のメカニズムや緑の大切さを学ぶ内容だ。

環境問題に関する研究で中国トップクラスの江蘇大学の鄭敏学副教授（右）は「中国でこうした先進的な教育を進める意義は大きい」と話し、国内のCO<sub>2</sub>排出量に歴止めをかけることを期待する。

伊藤教授は「身近なデータを使い、グローバルな視野で環境問題を考えるきっかけにしてほしい」と意気込んでいる。

た、同大で学んだ台湾人留

学生の紹介をきっかけに、台湾でも小中高二十八校が取り入れているほか、昨年末には大人向けの教材も出版された。